

平成24年9月八戸市教育委員会定例会会議録

- 1 開催日時 平成24年9月26日(水) 午後1時30分
- 2 場 所 市庁本館3階 議会第1委員会室
- 3 委員氏名
- | | |
|----------|-------|
| 委員長 | 平山 幹雄 |
| 委員長職務代行者 | 岡本 潤子 |
| 委員 | 小柴 一弘 |
| 委員 | 武輪 節子 |
| 教育長 | 松山 隆豊 |
- 4 職員氏名
- | | |
|--------------|-------------|
| 教育部長 | 芝 俊光 |
| 是川縄文館長 | 小林 和彦 |
| 教育部次長兼教育総務課長 | 佐藤 浩志 |
| 教育部次長 | 四戸 康雄 |
| 図書館長 | 津取場 重行 |
| 博物館副館長 | 澤田 多嘉男 (欠席) |
| 学校教育課長 | 齋藤 信哉 |
| 北地区給食センター所長 | 中里 親弘 |
| 東地区給食センター所長 | 板橋 稔 |
| 南郷地区給食センター所長 | 小林 啓作 |
| 教育指導課長 | 嶋脇 郁夫 |
| 社会教育課長 | 船田 泰寛 |
| 是川縄文館副館長 | 前田 美智子 |
| 総合教育センター所長 | 井上 貫之 |
| 市史編纂室長 | 藤田 俊雄 |
| 教育総務課副参事 | 小笠原 光則 |

(事務局員) 教育総務課主査 佐藤 正樹

平山委員長	<p>ただいまから、平成 24 年 9 月の教育委員会定例会を開会します。</p> <p>本日の議事録署名は岡本委員を指定します。</p> <p>それでは教育長から、主な会議・行事等について説明をお願いします。</p>
松山教育長	<p>(資料に基づき説明)</p>
平山委員長	<p>ただいまの説明につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
平山委員長	<p>これより議事に入ります。</p> <p>本日提出されております議案を審議いたします。</p> <p>それでは、議案第 33 号「地方自治法第 180 条の 2 の規定に基づく協議について」事務局から説明願います。</p>
佐藤次長兼 教育総務課長	<p>(議案第 33 号「地方自治法第 180 条の 2 の規定に基づく協議について」に基づき説明)</p>
齋藤学校教育課長	<p>(具体的な事務内容について補足説明)</p> <p>児童手当からの学校給食費の徴収事務につきましてご説明申し上げます。今佐藤次長のほうから説明がありましたとおり、児童手当受給資格者の申し出により、学校給食費を児童手当から徴収できるよう今年度 10 月から児童手当法が改正されました。このことに伴いまして、当課では給食費の未納者を対象に、平成 25 年 2 月の児童手当支給分から徴収事務を実施していきたいと考えております。現在、未納世帯への督促は、在学している児童・生徒分については学校に対応をお願いしております。また、すでに卒業、あるいは転出している児童・生徒分については当課が対応しており、毎月、電話による督促、文書送付、自宅への訪問等のいずれかの方法において督促を行っております。参考までに、当市の給食費の未納状況は、平成 23 年度は収入額 986,380,691 円に対し、未納額、これは決算楽であります 329,670 円で、未納額の割合は 0.033%となっております。2 年前に文部科学省が行った全国調査での未納額の全国平均割合が 0.6%でしたので、当市の未納は少ない状況と言えます。ただし、保護者間の負担の公平性の観点から、この制度を有効に活用して未納額回収についてこれから取り組んでまいりたいと考えております。なお、今後のスケジュールといたしましては、来月初めに市の児童手当事務取扱規則の改正及び市の児童手当に係る学校給食費等の</p>

	徴収に関する要綱を制定し、その後学校への説明や対象世帯への周知を行っていく予定です。
平山委員長	はい、ありがとうございました。ただいま、議案について説明がありましたが、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。 (質疑なし)
平山委員長	それでは、議案第 33 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。 (異議なし)
平山委員長	ご異議がありませんので、議案第 33 号を原案のとおり決定いたします。
平山委員長	以上で、議案の審議は終わりました。 次に報告事項にまいります。 はじめに「平成 24 年 9 月八戸市議会定例会一般質問事項について」は、事前に資料が配布されておりますので、委員の皆さんから質問がありましたら、お願いいたします。
武輪委員	資料の 10 ページにあります石橋議員さんの質問に関してお聞きしたいと思います。答弁内容の下から 5 行目に「また、元日本代表選手等を講師として、小学生対象の特別授業「こころのプロジェクト『夢の教室』」を実施し」というところなのですが、この「こころのプロジェクト『夢の教室』」というのは、具体的にどのようなものなのかご説明いただければと思います。
島脇教育指導課長	市内小学校の5学年の3学級程度を公募して、サッカー選手等のプロの選手を講師に招いて特別授業を行う、授業したり一緒に活動したりするというを行うということで、将来自分もこのような素晴らしいプロを目指すような人間になりたいというような夢を持たせるということでやっております。昨年度どなたが来たかということまではちょっと今覚えていません。
武輪委員	これは小学校に何か資料を提出して、学校側から希望しますというふうな形になるのでしょうか。
南館教育指導課 指導主事	担当ではありませんが、去年白山台小学校で「夢の教室」を行ったその様子についてもお話したいと思います。

	<p>市教委のほうから、学校にこういうふうなプロジェクト「夢の教室」、「ユメセン」夢の先生ということなんですが、それについて申し込まれますかと。そして学校から要望がありまして、たくさん要望がある場合は、申込用紙の備考欄があります、ここを読み取りながらこの学校にしようということでこちらから選ぶという形になっております。昨年度白山台小学校は5年生を3つのグループに分けて実施しております。去年は前の浦和レッズのゴールキーパーで、全日本のキーパーだった都築選手が来ておりまして、前半は子どもたちと一緒にレクリエーションを通して、チーム一体となることが大事だよということをレクリエーションを通して学びます。その後に、自分が経験した、夢に向かってうまくいったこと、それから挫折したこと、紆余曲折あるような話を交えながら、夢を持ち続けるのが大事だよという授業を行っております。前半はレクリエーション的なもの、後半はトークを話し合っていてやっております。</p>
松山教育長	<p>今お答えしたとおりですけれども、これは日本サッカー協会、JFAのこころのプロジェクト推進事業ということで、全国でやっているもので、21年には宮澤ミシェル選手、解説したりしていますけれども、それから22年にはアトランタオリンピック代表の秋葉選手、去年は先ほどありましたけれどもシドニーオリンピック代表の都築選手と。それでもう一つご説明しますけれども、旅費等はこちらで負担しますけれども、講師料等はJFAのほうでもってくれるということで、八戸の場合は八戸市サッカー協会のほうからもご協力をいただいて、費用の一部を出していただいております。そういうことで進めております。</p>
武輪委員	<p>そうしますと、この「こころのプロジェクト」は日本サッカー協会ということにはサッカー選手ということですか。いろんな競技ということではなくて。</p>
松山教育長	<p>講師の先生はサッカーだけではないと思います。サッカー協会が主体になって「こころのプロジェクト」をやっていますけれども、来る方はサッカーに限らないです。</p>
武輪委員	<p>はい、ありがとうございました。</p>
平山委員長	<p>関連ですが、先ほどのご説明の中から、市教委から申し込まれますかと声を掛けたんですか。</p>
南館教育指導課 指導主事	<p>各学校に、こういうものがあるんだけどどうでしょうかという文書を流して、それを学校が見て申し込むという形になっております。</p>

平山委員長	いいですね。
平山委員長	他にございませんか。
武輪委員	資料の15ページをお願いします。高山議員さんの小中野公民館の改築についてということで、こちらの要望欄に「小中野公民館建設事業に対する小中野住民の寄付という「応分の心」を十分に・・・」と書いてありますが、実際に小中野公民館の建設事業に対して、小中野の町内の方から寄付という申し出があったのでしょうか。
船田社会教育課長	予定では来月5日に、小中野地区の方から現金で300万円いただくことになっています。その300万円は使用用途は決まっております、隣接する空地約200㎡を購入する資金とさせていただきますということになっております。
武輪委員	お一人の方からということですか。
船田社会教育課長	いえ、集まったお金がもともと連合町内会の組織として、ある程度、剰余金ではないんですけども、少しの金額と言っていましたけれども、その程度のお金ならあるということで申し出がありました。
武輪委員	大変ありがたいことですね。
平山委員長	私からも少しお願いします。一つは9ページの田端文明議員さんの答弁のところに、『中1ギャップ』とも言われるように、友人関係や部活動など」とありますが、この「など」にはあとどのようなことが入るんですか。
四戸次長	小学校から中学校に入って、いろいろ環境が変わるわけですけども、例えば小学校が2校、3校集まってくればそういった意味で友人関係、あるいは部活動も始まる、その他に例えば勉強であれば教科担任制になるとか、今は小学校でも外国語活動が始まっていますけれども、つい何年か前までですと中学校にきて始めて英語を勉強するとかそういったことを含めて「友人関係や部活動など」となっております。
平山委員長	いろんな調査を見ますと、学力不足というのが結構入っているんですよ。ですからそれも意図して対応しなきゃいけないということをお願いしてお話しました。 もう一つお願いしたいんですが、次のページです。ここの中身は大変大事で、

<p>鳴脇教育指導課長</p>	<p>先ほども武輪委員さんが質問していましたが、私は真ん中ころに「中でも、子どもと『夢』を共有することは、子どもの思いや願いを大切にするとともに」とありますが、これは実際学校ではどのように行われているのでしょうか。</p> <p>「夢」という大きなところにはいかないにしても、子どもたちは各学期ごとに自分の目当て、目標というようなものを立てて、それに向かって努力するというようなことをしております。その中で、自分が達成していくということを通して、自分の存在感とかそういうようなものを高めていくというふうなところが小学校あたりではベースになっていくというふうに思っております。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>それから、もう少し下のほうになりますけれども、「将来の夢や希望をもたせる啓発的・意図的な指導に努めることについて、市内各小・中学校に指導している。」とありますが、ここはどうなりますか。</p>
<p>鳴脇教育指導課長</p>	<p>これはその前段にも書いてありますけれども、キャリア教育の推進ということが今年度から市の重点項目の中に入っております。その中で、前にもお話したと思うんですけども、子どもたちがその学級や学校、社会の中でどのように生きていくのか、どのように人と関わっていくのか、そのようなことをこれは小学校からスタートして中学校までの長いスパンの中で、その発達段階に応じたものを取り上げながら、道徳も含まれますし、特別活動も含まれますし、普通の授業の中でもということをやっているところであります。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>分かりました。先ほどのご説明で、小学校では学期ごとに目当てを立ててとありましたよね。八戸市の小学校でこれを研究した学校がかつてありまして、たまたまそれが先生の前任の町畑小学校なんですよね。あそこでは、子どもたちは学期に1回というのでは忘れてしまう、ではどれくらいの短いスパンにすればいいのかというのを研究しているんですよね。当時私が担当したもので。大変いい成果があって、当時は新潟県もやっていたけれども、それよりも八戸で町畑小学校がやっているのがいいと思っていたんですけども、スパンがあまり長くなれば忘れてしまうので、スパンをあまり長くしないでやっつけば結構続くという研究がありますので、どうぞ参考にさせていただいて、大変大事な中身でこれを継続したり、あるいは啓発したりということは、おおいにこれから進めていったほうが良いと思って話題にしました。ありがとうございました。</p>
<p>小柴委員</p>	<p>これとはちょっと離れるんですが、今の夢ということに関して、夢を子どもたちに持たせることは非常に大事なことだと思います。ただし、その夢が破れたと</p>

<p>松山教育長</p>	<p>きゼロになってしまうと、彼らがゼロとってしまう、そういう危うさというか、それを私いつも気持ちの中にあって、だから彼らにはやはり挫折しても、でもきちんと立ち直った人がいるんですよとか、そういう体験談とか、そういうことも大事なことでないかなと思います。</p> <p>さっきも説明がありましたけれども、夢の教室では夢曲線というのを講師の先生が書くんですよ。例えば小学校、中学校のときは順調にきたと、そしてあるときに非常に挫折をして落ちたと、でも僕はこういうことで、みんなに支えられたとか、様々自分の例を出して克服した例を言ってくれるのが夢の教室の特色で、順調にきたのではなくて挫折をいかに乗り越えたかということが語られるので、私は大変いいと思って見ていました。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>次に「八戸市教育振興基本計画について」報告を受けることとします。</p>
<p>佐藤次長兼 教育総務課長</p>	<p>(資料「八戸市教育進行基本計画について」に基づき説明)</p>
<p>平山委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問などありましたらお願いします。</p> <p>(質疑なし)</p>
<p>平山委員長</p>	<p>では次に移ります。</p> <p>この他、事務局から報告事項はありますか。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>事務局からは以上のようなようです。</p> <p>それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様から何かございますか。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>私から少しお願いしたいと思います。実践者がいますので少しお聞きしたいのですが、齋藤学校教育課長さん、一貫教育をやられてきたと思いますが、その功罪について、お感じのことを教えてください。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>前任校が田代小・中学校ということで、一貫校ではなく併置校という立場で3年間おりました。当初、小中ジョイントという視点でスタートしたということで、前任の校長からそれを引き継いで、最初の中1ギャップの解消という目的でもってスタートしましたけれども、田代小・中学校は併置校という歴史が65年という長きに渡っていたという経緯もあって、さらに一貫校に近づけるように努力して</p>

みようかということで取り組んでまいりました。

内容としては、一貫校の特徴としては、小中でもって連動した単元計画とか、そういうものを策定してやるという方法も考えたんですけども、なかなか併置校という制度的な部分でも限られているものがありまして、じゃあその制度の中で一貫校にどうしたら近づけるだろうかということでやってきました。

成果としては、一番大きな成果は、先生方の意識が大きく変わってきたと。これは具体的に言うと、小学校は小学校だけで終わりではなくて中学校に繋げるためのいろんな方法を考えて、それをまた中学校のほうに円滑に接続すると。また、中学校のほうとしても、やはり小学校のほうの取組を見ながら、それを活かして中学校で学ぶ。そういうような、先生方の意識の部分では大変大きな成果があったと思っています。

2つ目は学力についてですね。これ検証する際に今までは小・中という部分でそれぞれ分かれて検証していたわけですけども、やはり9年間を見据えて考えた際には、小学校でこういう課題があつて成果があつたと、それをまた中学校にバトンタッチして、それをさらに高めていく。そういうものが具体的に、数値的なもので表すことができたということも2つ目の大きな成果だったと考えていました。

最後3つ目は、なんと言ってもやはり保護者の意識が変わってきたということがあります。これは教職員だけではなくて、いわゆる地域、保護者の方々も、本校は小学校・中学校の9年間でもって育ててくれているんだと、そういう意識が保護者の方々に芽生えてきた。よって小学校の時にはあまり思わしくない、課題があるということだけでも、中学校に行けばまたいい面が出てくるんじゃないかと、保護者の方からそういう声が聞こえたという部分は、私は3年間の中では大変大きな成果だったなというふうに考えます。

平山委員長

先ほど私、一貫教育という言葉を使おうとしたところを一貫校と言ったのかもしれません。それは間違いで一貫教育ということでした。

デメリットは何かお気づきのことはありますか。

齋藤学校教育課長

一貫教育ということで、先進地も様々視察をしてみました。例えば東通の小中一貫校とか、あるいは三戸の取組とかですね。その中でやはり拝見して、本校の中で何か得るものがあつたらということで行ったんですけども、まず一つは規模が違うという、限られた教職員の中での取組ということがやはり大きなネックになりました。また、一貫校でそれぞれやっている取組なんですけれども、決して否定するわけではないんですけども、果たして一貫教育になっているのかなという疑問を正直持ちました。世田谷あたりの一貫教育というのは、小中併置校からスタートして、それをさらに進めて一貫校と、そういう段階を経て進めてい

	<p>るんですけども、まだまだ県内の一貫教育については普通の単独校をただ合体させての一貫教育というところで、システムのにもまだまだ不十分だなというような感じを受けました。これは私の所感ですけども。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>いくつか資料を見てみましたら、どうしても中学校の先生方の勤務時間といたしますか、働きがどうも膨らんでしまうことを指摘しているんですが、その点どうですか。</p>
<p>齋藤学校教育課長</p>	<p>交流授業とか、あるいは合同授業とか、そういうのをやる際に、やはり主導は中学校の教員が主導というのがどうしてもあるなど。例えば小学校6年生と中1の合同授業をやったときも、主導は中学校の先生、それをサポートするのが小学校の先生と、これはやはり実際なかなか難しいと思いました。あるときにこれを逆にしたこともあります。小学校の先生方に合わせて中学校と。でもここまでいくには、教材研究やら様々な部分で時間がかかるなど思ったのが正直なところですね。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>もう一つ、キャリア教育について、小も中もだいぶ混乱していると。中学校の研究物が送られてきましたけれども、一生懸命時間をかけて読んで、教育用語辞典を左手に持って読んで、コメントを返したんだけど、中学校もまだまだ混乱している。ましてや小学校は大変困っている状態が今だと思いますが、教育センターが中心になっての研修会の話は前にもお聞きしたんですけども、何かサポートの手がないかどうかということをお話したいんですが。</p>
<p>島脇教育指導課長</p>	<p>今、現場が大変混乱しているというご指摘でありましたけれども、学校訪問をしての手応えとしては、それほど混乱しているのではないと捉えておりました。文科省のほうからも様々なパンフレットだとか、そういうふうなのが出ておまして、小学校では特にそのようなものを利用して、活用して、校内研で共通理解を図っているという学校がほとんどでありました。その捉え方がどこまで深まっているかということについては把握しておりませんが、非常にそういう意味ではキャリア教育についても理解を深めてきているところではないかと認識しております。</p>
<p>平山委員長</p>	<p>手元に全中学校の資料があるんだけど、これを読む限りでは混乱しているというか、分からないといえいいんですかね。それで小学校はもっとそうだと捉えているんだけど、そう捉えていませんか。大丈夫ですか。</p>

齋藤学校教育課長	<p>委員長さんのお手元にあるのは、中学校長会で調べたアンケートの結果ではないのかなと思います。中学校長会のほうでは昨年来から、校長会の中でプロジェクトチームというのを立ち上げて、キャリア教育について校長自ら勉強しようということやってきております。そして現場の先生方がいかにその意識が高まったかという部分を調べたのがそのアンケートの結果ではないかなと。その結果を見れば、まだまだやはり中学校の現場では、キャリア教育云々というのが何を目的とするものかと、そこの第一段階からまだまだこれからやっていかなければいけないというふうな結果が出ていると思います。</p>
平山委員長	<p>そうなんですよ。中学校の校長会の資料で、研究者から送られてきた資料なんだけれども。小学校の校長会とも8月21日にお話しする機会がありまして、聞いた限りでは、困っているんですよという感じを受けましたけれども、指導課長はそうでもないみたいですけども、何か手立てをしてあげたらどうかと思って今話題にしました。</p>
竹花教育指導課 指導主事	<p>手立てということでございますが、委員長さんもお承知のとおり、4月の研修主任の講座のときに、キャリア教育では第一人者である早稲田大学の三村隆男先生にお願いいたしましてご講演いただきました。評価としては、だいぶ分かりやすかったということで、資料も提供していただいておりますので、それを使って校内研修のほうでも活用して欲しいということで、こちらとしてはお願いしてきているところでございます。</p> <p>中学校に関しましては、キャリア教育の研究会のほうで夏期講習会をやりまして、私も参加させていただいたのですが、江陽中学校の長澤校長先生からのご講演ということで、キャリア教育のこれまでの流れ、それからどういうところをポイントとしてやっていけばいいのかというふうなあたりでお話がありました。さらに中学校は、12月にも早稲田の三村先生を再度呼びして、3時間演習を交えながらというふうに向っておりますけれども、研修するというので、その橋渡しも少しこちらでお手伝いしているということもあります。</p> <p>中学校のほうでは本当に進路指導からキャリア教育へというので、似通っているんですけども、どこがというのは確かに混乱ではないのかもしれないんですけども、誤解の部分はあるのかなというふうには捉えております。資料としてはどちらの学校も今キャリア教育の全体計画を作っておりますので、形の部分は整ってきているんですけども、中身のところでの混乱というのは多少あるのかなというふうなことで、そういう形でお手伝いはしているところでございます。来月、中教研のほうで授業がありますので、そのときにもまた少し、私も呼ばれておりますので、話をしようかなというふうに思っておりました。中学校のほうはまったく新しいものですので、難しいところがあるかと思うのですが、先日</p>

	<p>も研修講座、あるいは指導課で話し合いをしたときに、キャリア教育についてはやはり、まずどの立場の先生方に理解していただくのがいいのかということで、今年度は研修主任の先生方ということだったんですが、来年度はどの辺にそういうふうなところをぶつけて広げていこうかというところは今話し合っている最中でございます。</p>
平山委員長	<p>皆様、現場に先んじて研修やら勉強やらしていると思いますので、それから研究物でも皆さんのところに集まってくると思いますので、それをお読みになっていいところを、エキスを現場に提供すると。小学校にも中学校にも提供してあげるといふ、そういうことが欲しいのです。お願いしておきます。</p>
平山委員長	<p>最後になりますが、昨日、先ほど教育長さんもお話しましたが、県大会の授業参観に参加してきました。授業らしい授業をしているなど感じてきました。少人数で先生方も少ない人数で一生懸命頑張っているという印象を受けました。算数を中心にやっている学校が多かったので、大変興味を持って見ましたが、やはりこちらの指導が必要な部分もあるなど感じましたので、どうぞ指導主事をはじめ課長さんたち、指導するときはおおいに指導してやって欲しいなと思いました。</p>
平山委員長	<p>それでは私事ですが、最後にちょっと時間をいただきたいと思います。4年前を少し振り返ってみました。そしたら4年前に私はいい仕事をしたいと歓送迎会の際に言ったんです。そしてまた心には、晩節を全うしたいという考えもありました。その思いで非力ながらも全力投球してきたつもりであります。教育委員会法とか新教育基本法、新学習指導要領やネットで引き出した諸資料など、読み物が非常に多かった4年間だったと思っております。出勤回数に比較して多くの時間を費やす結果になって、おかげ様で充実感を噛み締めている、そういう思いでございます。</p> <p>最後になりますので、図書を紹介して、あとちょっと一言二言申し上げたいと思います。先に図書のほういきます。1番に丸山真男という方の「忠誠と反逆」というのがあります。岩波新書であります。それからこれ前にも言ったかもしれませんが、岡本薫著の「日本を滅ぼす教育論議」というのがあります。講談社現代新書であります。この2つは、リーダーの方、リーダーを目指す方にお薦めでございます。3つ目の本は岸本裕史著で「見える学力、見えない学力」というのがあります。大月書店です。500～600円の本ですけれども、これは子や孫育てに関わる方への推薦でございます。課長級の皆さんは今まだお孫さんはいないかもしれませんが、この先いるでしょうから、私も今これを活用して孫育てをやっているんですけれども、子や孫育ての方へお薦めの本でございます。これで本の紹介は終わりました。</p>

私は非常にこの4年間を見て感じたのは、事務局の皆さんの働きぶりでございます。一点の瑕疵もなく大変満足しています。本当にありがとうございました。それからやはり私これを言わなければならないなと思って言いますので、耳が痛いかもしれません。学校教育に関しては、目標に対する手段、方法について、厳格な検証抜きにして、現場の主体性を尊重するのみでは、いかななものかとやはり考えています。現場の声にも同様なものがたくさんあるんです。先ほど言いませんでしたが、いかにこの声をとるのかというのがポイントですね。今年入ってこられた皆さんにはお願いしましたね。まず現場の声を出してください、伝えてくださいとお願いしました。市教委に現場の率直な声が届かなくなつては、裸の王様同様になります。これはおおいに気をつけたい点と考えます。今日の日を私もう少し早く知っておれば、もう少し計画的にお話をしてきたんですけども、最後少し詰まってしまった感じで、大変申し訳ないと思っております。与えられた課題解決のために、多弁を勞し、苦言を呈したことと思います。皆様には大変ご迷惑な面も多々あったかと思いますが、一つでも参考にいただければ幸いです。八戸の子どもたちのため、大いなる発展と皆様方の一層のご奮闘をお祈りして謝辞といたします。お世話になりました。

平山委員長

それでは、これをもちまして平成 24 年 9 月の教育委員会定例会を終了いたします。

(午後 2 時 24 分終了)